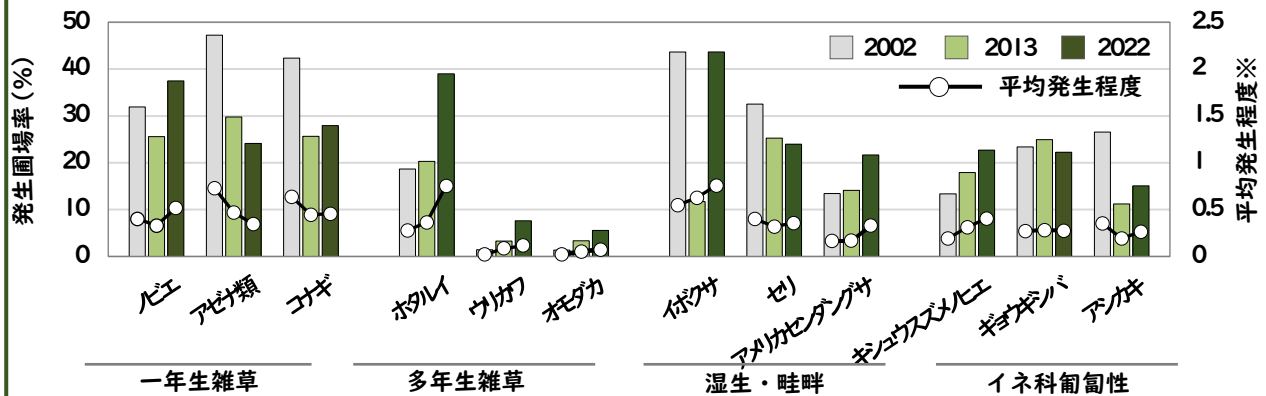


三重県における水田雑草発生の特徴と変化

利用対象：土地利用型農家、普及指導員

県内の水田圃場において雑草の発生実態調査を行いました。
 前回の調査から約10年が経過し、雑草の発生量や発生している地域等に変化が見られました。
 近年問題となっているヒレタゴボウは、急激に発生が広域化していることが確認されました。

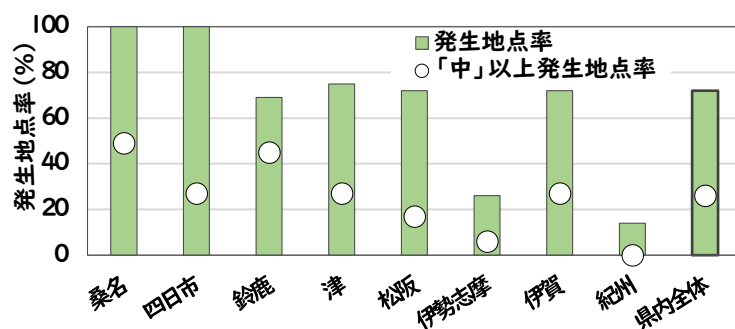
水田雑草の発生推移



- ・ 県内145地点の水田圃場を調査した結果、一年生雑草が31種、多年生雑草が9種、湿生雑草が9種、イネ科匍匐性雑草が6種確認されました。
- ・ ノビエやホタルイが過去最多となる37%又は39%の圃場で確認されました。ウリカワやオモダカも増加傾向にあることが明らかとなりました。
- ・ キシュウスズメノヒエも過去最多の発生となり、20年間で1.7倍に拡大しました。
- ・ 今回の調査では、コウキヤガラが伊賀地域で、アシカキが紀州地域で初めて確認されました。

※平均発生程度は各雑草の6段階評価結果を0~5の値で加重平均したもの

ヒレタゴボウ発生状況



ヒレタゴボウ



「中」発生圃場

- ・ ヒレタゴボウは調査した144地点のうち、72%で発生が確認されました。
- ・ 水稻収穫作業へ影響を及ぼす水準の発生程度「中」以上の地点が26%も確認されました。

お問い合わせ先	生産技術研究室 農産研究課 大野鉄平 電話 0598-42-6359 中央農業改良普及センター 加藤伸二 電話 0598-42-6323
参考になる資料	https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/74882027005.htm (三重農研HP)